

平成23年度 事業系一般廃棄物減量化計画書のまとめ

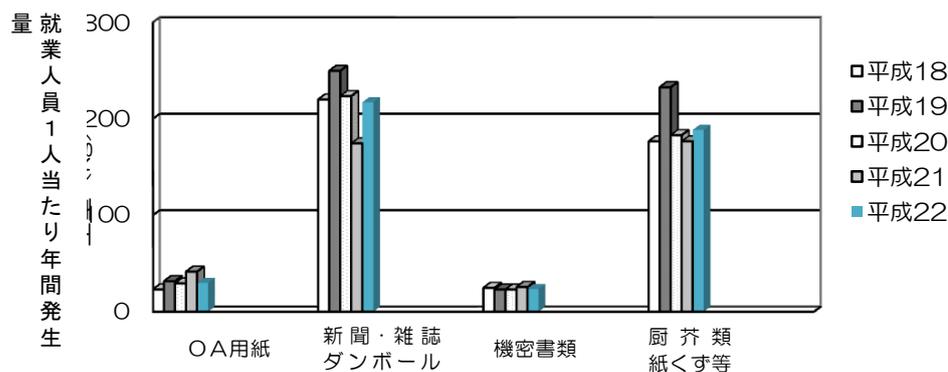
1. はじめに

このまとめは、市内の大規模事業者の皆さまより提出していただいた事業系一般廃棄物減量化計画書に基づいて、平成22年度実績での事業系一般廃棄物の発生状況と減量化・資源化の具体的手法についてとりまとめたもので、事業者の皆さまに今後の廃棄物管理の参考としていただくことを目的として作成しました。

2. 対象及び提出状況

- ◇ 対象事業者数 432
- ◇ 提出事業者数 327（内有効回答数は218）
- ◇ 提出率 75.7%

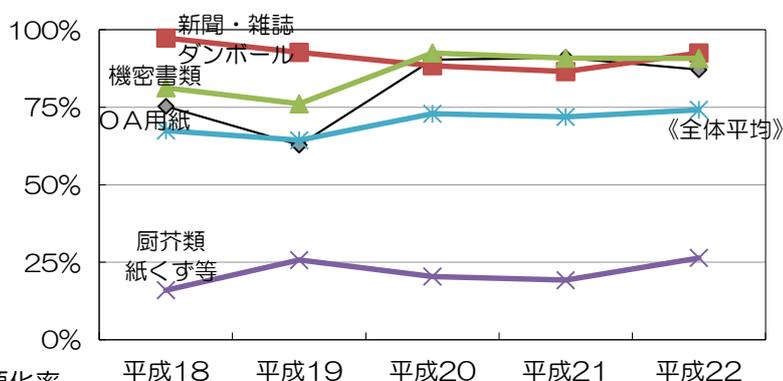
3. 就業人員1人当たり事業系一般廃棄物の年間発生量の推移



◇ 就業人員1人当たり年間発生量 (kg)

年度	OA用紙	新聞・雑誌ダンボール	機密書類	厨芥類紙くす等	《合計》
平成18	23.1	220.0	24.7	176.6	444.4
平成19	31.6	249.7	23.0	232.7	537.0
平成20	29.3	223.5	23.0	183.0	458.8
平成21	41.5	174.5	25.6	176.6	418.2
平成22	29.9	217.1	23.5	188.5	459.0

4. 事業系一般廃棄物の資源化率の推移



◇ 資源化率

年度	OA用紙	新聞・雑誌ダンボール	機密書類	厨芥類紙くす等	《全体平均》
平成18	75.3%	97.3%	81.3%	16.0%	67.5%
平成19	62.8%	92.7%	76.1%	25.7%	64.3%
平成20	90.3%	88.4%	92.5%	20.4%	72.9%
平成21	91.0%	86.5%	90.8%	19.2%	71.9%
平成22	87.1%	92.5%	90.7%	26.4%	74.2%

5. 減量化・資源化の具体的手法

書類系

- ◇社員証を用いた社員各個人のコピー用紙使用枚数の把握
- ◇用紙の両面使用・縮小コピー
- ◇分別を徹底することで有価取引のできる古紙量を増加させた
- ◇これまでA3であった書類をA4にサイズ変更することで用紙を節約
- ◇スキャナ・社内LAN・プロジェクター・テレビ会議を活用し、用紙の使用量を削減
- ◇内部連絡はFAXからEメールに切り替え
- ◇リサイクル可能な紙類を子供会の廃品回収へ提供
- ◇レジ記録紙・保存書類等を電子化
- ◇シュレッダー処理後の書類を小袋に入れ緩衝材として利用
- ◇シュレッダー処理後の書類をRPF化する業者で処理

飲食系

- ◇厨房での料理から弁当へ変更し生ごみゼロ化
- ◇マイボトル・マイカップの使用により、飲み物容器の廃棄量を削減
- ◇弁当や飲み物の容器は、社員に持ち帰りを呼びかけ
- ◇昼食時に割り箸ではなく塗り箸を使用
- ◇生ごみ処理機を使用し自社で堆肥化
- ◇生ごみは堆肥化や飼料化を行う業者で処理

その他

- ◇社内の個人用ごみ箱の撤去と共用ごみ箱数の削減
- ◇ごみ箱にごみの写真を貼り出し、分別を分かりやすく工夫
- ◇ごみの計量を徹底し、部署別排出量や再資源化量を社内で公開
- ◇ごみ分別状況パトロールの実施
- ◇社内に環境委員会を設け、各部署での目標達成のために従業員の意識向上を図る
- ◇消耗品は詰め替え可能なものを選ぶ
- ◇グリーン購入やLED照明の率先導入
- ◇ISOなどの環境マネジメントシステムに基づく廃棄物管理
- ◇太陽光発電の利用
- ◇屋上緑化の推進
- ◇商品販売時のレジ袋を削減するため、マイバッグ運動を実施
- ◇商品の包装を簡略化
- ◇トイレの手洗い用としてペーパータオルからハンドドライヤーへ変更
- ◇材料の納品業者へ梱包の簡略化を依頼
- ◇経費削減という視点でごみの減量化を図る

今後とも事業系一般廃棄物の減量化・資源化にご協力をお願いします。

事務担当	津市環境部 環境政策課 資源循環推進担当
電話番号	059-229-3258
E-mail	229-3139@city.tsu.lg.jp